



令和2年5月1日現在
世帯数 : 786世帯
人口 : 1446人
男 : 701人
女 : 745人

新任のぞあいさつ

第一地区公民館



館長
水野 範明

第一地区町会連合会の推薦

を頂き、4月1日より公民館長として就任させて頂いています。公民館は3月で開設10年という節目を迎え、今年はさらなる飛躍の年です。初代中畑館長、二代目阿部館長の「人力と尽力」により築いてこられた公民館です。引継いだ私の責任は重いと痛感しています。

私が館長に就任させて頂いた経緯は、民間会社を定年退職したのがきっかけでした。平日は町内、地区の活動にはほとんど協力できませんでしたが、中畑町会長より退職を機に地区と関わりを持つてはどうかと公民館長に押し頂きました。



私が日常心がけていることは①あいさつ、笑顔を忘れない②コミュニケーションをとる③相手の話をしっかり聞くいずれも目指すところは一緒で、互いが尊重し合い、思いやりを持って接することです。

私が取り組みたいことは①公民館、地域づくりセンター、福祉ひろばと互いの情報共有、連携強化で柔軟な行動を実施する。②開設10年間の運用を振り返り、地区の環境変化に合った運用を進めて行く。③地区の皆さんと仲良くなる。このような私ですが、よろしく願いいたします。

第一地区地域づくりセンター



センター長
吉澤 拓

4月から第一地区地域づくりセンター長に就任しました。

吉澤拓(よしざわたく)と申します。慣れないため、皆様にご迷惑をおかけすることもあるうかと思いますが、どうぞよろしくお願い致します。

私は生まれが芳川地区で、子供のころここ第一地区はあこがれの地でした。誕生日のような特別なときににぎやかな『まち』の商店に連れて行ってもらい、わくわくドキドキしながらおもちゃなどを買ってもらいました。今では様子はすっかり変わってしまいましたが、私にとって特別な『まち』です。

本市は平成26年に市内全35地区に地域づくりセンターを設置しそれぞれの地区で、地域の課題を解決する仕組みづくりや、将来を見据えた人材育成に取り組みははじめました。その後その取り組みを土台に「誰もが住み慣れた家で、地域で、安心して暮らし続けることができる仕組み」地域包括ケアシステムの構築を推進しています。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため大勢の人が集まつの話ができませんが、みなさんで無理をせずに助け合う地域づくりにご協力をお願いします。



第一地区公民館
前館長
阿部康之助

この3月31日をもって地区公民館長を退任いたしました。在任中の4年間多くの皆様のご支援ご協力をいただき、無事務めを終えることができました。楽しい思い出もたくさんから感謝しております。公民館の仕事を通して地域の多くの方々と知り合うことができた、私にとって何よりの尊い財産になりました。

第一地区は19町会のうち、単独の公民館がある町会は、5町会と少なく、地区公民館は地域づくりの拠点として、福祉ひろばや関連団体と協働して「ヒトの輪」を広げていくことにやりがいを感じました。「地域づくりは人づくり」といわれますが、人とのつながりがいかに大切か改めて勉強させられました。水野新館長を迎え引き続き変わらぬご支援ご協力お願いいたします。

地区の益々のご発展と、皆様方のご多幸をご祈念申しあげ退任の挨拶いたします。

退任のぞあいさつ

今回、第三地区地域づくりセンターへ異動となりました。第一地区地域づくりセンターは2年間という短い間でしたが、温かい皆さんに囲まれ幸せな時間を過ごすことができました。本当にありがとうございました。振り返りますと、皆さんと一緒に作り上げていく大変さと達成感を味わうことができた三大事業(納涼祭、敬老祝賀会、ふれあいまつり)への取り組みが一番の思い出です。また、百歳体操、ブロック別交流会、居酒屋ひろばなど新しい動きが進み始めたことは嬉しい限りです。反面、防災活動や地域包括ケアの取り組みが十分できなかったことには悔いが残ります。

第一地区にはこれから取り組むべき課題がいくつもあります。『安心・安全で住みやすいまち』の実現に向け、春日町会連合会長を中心としたまちづくりの取り組みが順調に進みますようお祈り申し上げます。



第一地区地域づくりセンター
前センター長
降旗 英明

第二地区の文化・伝統 シリーズ① 街と人が出会う場所 信毎メディアガーデン



信毎メディアガーデンは2018年4月28日、信濃毎日新聞松本本社移転に伴い、市民に開放する「コミュニティゾーンとショップゾーン、オフィス（信毎松本本社、株M Gプレス）を備えた複合施設として開業しました。建物はルーバー状の外壁と木製の窓枠が特徴的な地下1階、地上5階建て。下諏訪町出身の世界的な建築家、伊東豊雄氏が設計を手がけています。

各種イベントに利用できるコミュニティスペースのうち、1階「ホール」は約200㎡の多目的スペース。大型スクリーン、音響、照明、映像、展示設備を備え、コンサートや演劇、講演会、展示会などにご利用いただけます。

約90㎡の3階「スタジオ」は壁の一面が鏡張り、二面がガラス張りとなっていて防音仕様。音響・映像設備のほか更衣室もあり、各種セミナーや会議のほかダンスの練習やサークル活動にも対応しています。

3階「キッチン」は料理研究家横山タカ子さんが監修。

ガスコンロやオーブン、食洗器を備え、料理教室ほか食事会、ワークショップスペースとしても対応が可能です。

「スクエア」は約200㎡あり、本町通り、伊勢町通りに面した屋外広場です。マルシェや展示会などイベント会場として市民行事が盛んな松本の街と一体となった利用ができます。

テナントとして出店するショップは計10店舗。1階には食品、生活雑貨を扱う店舗とスタンダード型のコーヒーショップ。

2階はクラフトや衣類を販売する店舗、信州産のフルーツを使った菓子やシールドなどのギフトショップ、アウトドア用品ウエアなどを取りそろえる店舗が2店、計4店がショップゾーンを形成。

来店者に新しいライフスタイルを提案しています。

3階は4月15日にオープンした和食レストランのほか、クラフトビルを扱うビアレ스토랑、ジビエ料理を中心としたレストランと信州の食材を楽しめる3店の飲食店が構えています。また、充実した外国語学習プログラムがそろったスクールもあります。

信毎メディアガーデンは、オープンから2年余り。松本駅と松本城の中間点に位置し、半径500m圏内には商業、観光、芸術文化の建物や施設が集中。江戸時代には各地からの使者が登城前に滞在した「御使者宿」があったとされ、古くから人と物が集まる場所でした。これから街の賑わいづくりに寄与するべく、さまざまなイベントも展開していく予定です。お気軽に足をお運びください。

(信濃毎日新聞社松本本社)

まちなか情報局



令和2年度 第一地区町会役員 (敬称略)

【町会長】

本町1丁目 山崎眞生 夫
本町2丁目 村山 孝幸
本町3丁目 林 健司
本町4丁目 北原 一男
本町5丁目 宮澤左千夫
伊勢町1丁目 井垣 守健
伊勢町2丁目 糸井 健至
伊勢町3丁目 桐原 崇光
分銅町 藤澤 淳次
新伊勢町 真島 富男
神明町 田中 修
国府町 村田 精義
西五町 春日 孝介
西長沢町 新井富士子
中条中 中畑 康則
博労町 伊藤 峯一
中町1丁目 羽山 義輝
中町2丁目 今井 啓一
中町3丁目 増田 道憲

【町内公民館長】

内藤 英昭
長崎 俊夫
中原 正勲
岩原 明利
高橋 博一
田中 陽一
犬飼 健能
深澤 (同左)
寺沢 厚子
塩原 信一
毛利 達生
(同左)
(同左)
花村 麗子
伊藤 善立
(同左)
鷺沢寿美子
(同左)

電車通り

私たちは今、新型コロナウイルスの蔓延により、苦しい毎日を送っている。

駅前周辺の静けさはまるで元日のようだ。違っているのは、めでたさのかけらもないこと。倒産した会社は100を超えたという。これからまだまだ増えるだろう。

政府の対応は遅々として進まない。庶民は悲鳴を上げています。

検査能力の低さや、医療体制の脆弱さなどはもちろん、日本の危機管理はどうなっているのだろう。日頃から、きちんと予算を付けて、準備しなくてはならない。

一方で令和2年度、日本の防衛費は5・3兆円を超えた。設置先も決まらない陸上配備型迎撃ミサイルやステルス戦闘機など、米国から多くの武器を購入するために多額の予算を計上している。

今、私たちに本当に必要なものは何なのか。

危機に陥った時、多くの犠牲を払った分、そこから学び取り、前に進まねばならない。この災厄の一日も早い終息を願ってやまない。